

2 文化づくり

1学期は、5月25日（土）に小中合同体育祭を行いました。合同体育祭は、河合小中のすべての行事の中でも、9学年全員が揃う唯一の機会です。〈全力疾走～革命の第一歩～〉のスローガンのもと、児童生徒がかかわり合いの中で考え、助け合いながら演技を創り上げ、共に成長していく姿を目指しました。

今年度も1～9学年すべてを含めた12のたてわり班をつくり、異学年のペアで活動する時間を増やしました。ペア活動のよさは、児童生徒一人ひとりが目の前の相手とコミュニケーションをとり、互いに支え合う経験を通して、主体的に演技や競技に向かい、成長できることです。事前のメッセージの交換からオリエンテーションでのアイスブレイク、エール交換の練習など、本番までにいろいろな場面で心温まる姿が見られました。体育祭当日も、たてわり班ごとのテントに分かれて過ごすことで仲を深めました。これは昨年度からの取組で、児童生徒は互いに班の仲間やペアの相手を応援し、競技の出番以外の時間にも自然にふれあう姿が見られました。全体のプログラムは、体育的な演技発表を主とする第1部（テーマ：「魅せる」）と、小中のつながりを求める第2部（テーマ：「かかわり」）とすることで、ねらいを明確にして取り組みました。第1部では、6～9年生で新たに「大縄跳び」を加え、クラスで団結する場面を設定し、縦だけでなく横のつながりも大切にしました。第2部の全9学年が参加する演技では「5色綱引き」を行いました。この「5色綱引き」は通常の綱引きとは異なり、作戦を立てて状況判断をしながら動くため、たてわり班で動きを確認したり、指示を出したり、励まし合ったりと熱の入る競技となりました。今年度の合同体育祭も、多くの児童生徒にとって、他者とのかかわりの中で創り上げたという達成感や充実感を得られるものとなったのではないかと思います。

2学期には10月1日（火）を「小中特交流の日」として、「たてわりふれあい講座」を行いました。ねらいを「体育祭で深めた絆をさらに深める」「特別支援学校と河合小中の交流を深め、互いを知り、よさを認め合う」「地域とのふれあいを通して、河合のよさを知る」とし、合同体育祭のたてわり班のメンバーに特別支援学校の児童生徒が加わり、12の講座を実施しました。内容は「モルック」「調理」「ドミノ」「器楽合奏」「ボッチャ」「グランドゴルフ」「陶芸」などで、河合小、河合中、特別支援学校、あお陶遊館アルテを会場として、80分間程度の活動を行いました。講座内容の決定に際しては、児童生徒にGoogle Formsでアンケートを実施し、「自分たちの班のよいところ」や「もっとのびしたいところ」を振り返り、それらをのばすためにどのような講座がよいかを出し合い選びました。どの講座も9学年と特別支援学校の児童生徒がいそいそと活動し、同じ時間を過ごす中で互いを知り、よさを認め合うことができたのではないかと思います。また、地域の方々に実技指導をしていただいたり（グランドゴルフ）、講座を参観していただいたりと、河合地区の方々とのつながりを大切にできる行事となりました。

今年度も、学年や学校の枠を超えた出会いやかかわり、豊かな学びが得られる機会を設定してきました。今後も、児童生徒が互いにかかわり合いながら企画・実践し、そこで得た学びを次の行事や生活に生かすことで、主体的に物事に向き合う力を伸ばしていきたいと思っています。



3 ふれあいの日

今年度も学期に1日ずつ5年生が中学校舎に通う「ふれあいの日」を実施しました。

1学期は、生活交流を主とし、中学校舎案内や給食の準備の仕方、合同掃除、スポ少&部活動の行進・壮行会に参加しました。

また、普段から中学校教師による「社会」や「家庭科」の授業を受けていますが、この日は「音楽」「理科」の授業を受けました。6～9年生はオープンスクールとし、保護者参観を実施しました。

2学期は、6～9年生との交流授業を主として、7年生と「合同体育」、8年生と「合同英語」、6年生と「総合」で「発見」旅行報告会を行いました。自然学校を終えて、班別活動の楽しさを実感した5年生は、「発見」旅行への新たな目標ができました。

3学期は、5・6年生の中学校説明会が行われました。

「ふれあいの日」を通して、異学年交流ができ子どもたち同士の繋がりが深まりました。また、中学校の生活や学習活動を知ること、中学校舎へのなめらかな移行ができる機会となっています。

